

令和6年度 学校評価結果公開シート

敬応学園幼稚園

1、本園の教育目標

自分で考え行動出来る「生きる力」をつけられるよう、立派な人格を持った人間の育成のため、幼稚園教育要領と浄土真宗の精神に基づき、宗教的情操を高め、一人ひとりの個性を伸ばし、豊かな環境でのびのび素直な子どもを育てることを目標とする。

- ★よい生活習慣を身につける
- ★感謝の気持ちを持つ
- ★自然の恵みを喜び、生かされていることに気づく

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ☆外部の研修会に参加し、教師としての資質を向上させる
- ☆様々な保護者との連携をとり、信頼関係を築く
- ☆専門的な知識を得る
- ☆園の方針、目標の理解を深め「生きる力」を身につけるため
「自分でできることは自分でする」ことを年齢や発達段階に応じて、保育を推進する

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	取組状況
1 教育環境設備	B	・園庭に熱中症対策による日よけ屋根を設置。 ・明るくのびのびとした環境と子どもひとりひとりの安全性を確かな状況に努めた。 ・耐震対策及び老朽化した屋根、雨漏り、壁面のひびなどの修復工事を行った。 ・熱中症対策にぞうさんミストを設置し、各教室の冷暖房を新しいものに取り替えた。 ・園庭の遊具の定期点検を行い、修復した。
2 安全対策	A	・園横に駐車場を増設し、混雑を回避するとともに、登降園時の門から駐車場へ渡る際、保護者の責任のもと、注意喚起を行った。 ・防災訓練は毎月一度、地震・災害の避難訓練や不審者による防犯訓練を行うことで安全管理を確認し教職員の意識を高めることが出来た。
3 保育内容 子どもの表現能力の向上	A	・音楽・絵画・造形等、既成概念にとらわれず、子どもの創造性を養うことに重点をおき発想に応じて表現力、想像力を高め、個性を豊かにした。

		・様々な体育活動を行い、運動感覚や能力を高め、健康な体作りに努めた。 ・挨拶の徹底・話を聞く・順番を守る・約束の順守など生活習慣が身につくよう言葉かけをする。 ・親子で季節の野菜を育てることから始め、収穫した野菜を家庭に持ち帰り親子で調理し、食すことにより、様々な食材に触れ食べることの大切さなどを知り関心を持てるよう充実を図った。
4 教職員の資質向上	B	・各研修会に参加し、学んだことを資料にまとめ職員会議において提供し資質向上を図る。 ・教職員間で情報交換や意見交換を密にし、お互いを尊重し合いながら、日々の保育に取り組むことを、ひとりひとりが意識しマンネリ化した保育にならないよう努めた。 ・保護者との連携を大切にし信頼関係の向上に努めた。 ・保健衛生面では、マニュアルによる救急・感染症や嘔吐物などの対処法の勉強をし、再度確認を行った。
5 研修と研究	A	・他園の研修会に積極的に参加。教職員に資料提供する。また、発表会などで研修を参考に、保育をすすめた。 ・アレルギー研修（エピペンの使い方）に参加し、職員全員に情報交換、使い方の指導を行い、理解を深めた。 ・アレルギー園児の個別机を新たに購入することにより、安全性を高めた。 ・体育専門教師による計画的指導により、体操あそびを通して、子ども達の運動能力を高めるとともに友達同士の団結力や思いやりが育ち関わりを深め、考える力を養うよう努めた。
6 子育て支援の充実	A	・早朝保育（7時30分～）、超過保育（17時～18時30分）の時間延長を実施。 ・月3回程度、未就園児（ひよこくらぶ）の活動を行い、毎回内容を変え、楽しめるよう努めた。 後半（10月～1月）は、月2～3回程度、母子分離保育を実施し園に慣れ親しむことで保護者からの安心を確保することが出来た。また数時間の分離時間を設ける事で、保護者の育児や生活への

		ストレスなどの軽減を図ることが出来た。また、同年代の保護者同士の交流や子育て相談できる機会を設けることで、情報交換の充実を図った。
7 子どもの成長の向上	A	・子ども一人一人に寄り添い、個々の内面を理解し、認める中で、自信につながるよう努めた。 ・ありがとう、ごめんなさいなど、感謝の気持ちを大切にし相手の気持ちを考えたり、自分の気持ちを素直に伝えることが出来るよう努め、思いやりの心を養うことが出来た。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理 由
B	取り組むべき課題の為、具体的な実施内容や方法を全職員が日々話し合い、共通理解することで教職員が一人ひとりの子どもを見る視点に意識変化がみられた。今後も客観的な視点で自らの教育を見直し、さらに充実した実践ができるよう努力を重ねてほしい。

【達成度の表示方法・評価の基準】

- A：十分に達成されている。
- B：達成されている。
- C：取り組まれているが、達成が十分でない。
- D：取り組みが不十分である。

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
1 教職員の資質向上	・子ども達の様子をよく観察し、成長や変化に気づけるようにする。ひとりひとりの子どもの良さを認め、教員が客観的に子どもを見る目を養うよう努める。 ・これまでの保育カリキュラムの編成の見直し、マンネリ化の保育にならぬよう保育活動の更なる充実を図る。 ・現状の教育課程に満足せず、保育内容やコーナー遊びが出来るようスペースの工夫や昔遊びの復刻を取り入れるなど全職員が提案し実施する。 ・外部研修や園内研修を通し、教員の専門性・資質を向上し、保育に反映する。 ・職員間への連絡事項や情報の伝達の徹底に努めたが、まだ十分でない。伝達連携の重要性を踏まえ、各自、保育や責任感などを見つめ直し疑問や改善点など職員間の意見交換を今後の課題とし、資質向上を目指す。

	・家庭・保護者との連携を大切に更なる信頼関係の向上に努める。
2 教育環境設備	・固定遊具や施設の破損、修理ができていない箇所の点検、修復、安全性を強化させる。
3 子育て支援	・早朝保育（7：30～）と超過保育（17：00～18：30）の時間延長を実施する。 ・未就園児（ひよこくらぶ）の活動の内容・回数を増やし充実させ、園の特色や子育て相談できる機会を増やす。

6、学校関係者評価委員会の意見

- ・子育て経験のある教職員が多く、丁寧にひとりひとりの子どもを見守り、把握しながら職員が保育にあたっているという評価を受ける。
- ・自然に囲まれた幼稚園であり、食育に力を入れ、保育の中でも自然に子どもたちがふれ合うことができる環境が素晴らしいという評価を受けた。
- ・園の対応や設備の改善が行われている。

7、園児募集について

- ・入園説明会を実施するだけでなく、個別に相談を受付、丁寧に対応した。
- ・未就園児ひよこくらぶの参加から誕生日を迎え、満3歳児クラスに入園する子どもさんも多く見られ、ポスターやネットなどで参加募集をするとともに、入園募集へと促す。